

西宮市で確認できた甲虫類 2 種の報告

神吉正雄¹⁾・石川延寛²⁾・木下翔太郎²⁾

筆者らは、西宮市内で外来移入種のツヤハダゴマダラカミキリと生息が少ないオオムツボシタマムシを確認したのでここに報告をしておく。

1. ツヤハダゴマダラカミキリ

Anoploa glabripennis Motschulsky

本種は中国・朝鮮半島などに生息するとされていたが、2002年から日本への侵入が確認され、2021年には兵庫県の六甲アイランドのアキニレで発生し、定着した。神戸市は発生木のアキニレの皆伐を行い、撲滅に努めている。

筆者神吉・石川と新井雅夫は、伐木処理以前の2021年6月27日に調査に入り、アキニレの食害実態と本種の生息状況を確認した。同時に、以前六甲アイランドで多発したホシベニカミキリ *Eupromus ruber* Dalman も確認している。その後、神吉は2024年6月までに、六甲アイランドに4度入り、発生木伐採跡地の調査を行ったが、本種の確認はできなかった。

一方、ホシベニカミキリについては、六甲アイランドから隣接する芦屋浜埋立地にも拡大したことを筆者は既に確認しており、さらに西宮浜埋立地への拡大も確認していた。ホシベニカミキリの分布の拡大状況から芦屋浜・西宮浜への侵入を推測し、芦屋浜への調査を2023年・2024年に実施したが確認できなかった。

しかし、2023年春季に西宮浜でツヤハダゴマダラ

カミキリ1頭が確認されたという風聞を聞いたため、2024年2月に西宮浜のアキニレの街路樹へ、脱出孔の確認調査に神吉と石川で入った。さらに、生体の確認のために同アキニレ街路樹へ石川が調査に入り発生状況の確認をした。その結果は以下の状況であった。

①西宮浜のアキニレに見られるツヤハダゴマダラカミキリの脱出孔調査

調査：2024年2月17日

調査者：石川延寛・神吉正雄

調査結果：

西宮浜の東西の長い道路両面に植栽されているアキニレの全木調査を実施した。食痕・脱出孔と見られるものを確認できたのは20本弱であった(図1)。

脱出孔のあるアキニレは街路樹の主に中央部から西(海岸部)に多かった。脱出孔は、木肌がなめらかな樹には見られず、生木の幹ないし主枝に見られた。ただ、脱出孔のあるアキニレの状態と脱出孔の状態とが新鮮でないものが多いので、2023年発生でなくそれ以前からの発生も考えられ、むしろ芦屋浜経由でなく、六甲アイランドとほぼ同時期から侵入した可能性も考えられた。

これらの脱出孔が本種のものであるかの確認は、5月以降の発生時の生体確認調査を待つことにした。なお、上記の状況を西宮市役所に筆者所属西宮自然保護協会を通じ連絡した。



図1. 西宮浜でのアキニレの街路樹とツヤハダゴマダラカミキリのものと思われる脱出孔.

¹⁾ Masao KAMIYOSHI 兵庫県宝塚市；²⁾ Nobuhiro ISHIKAWA・Shotaro KINOSHITA 兵庫県西宮市

②西宮浜のツヤハダゴマダラカミキリの確認調査

調査：2024年6月26日

調査者：石川延寛

調査結果：

ツヤハダゴマダラカミキリ 2♂ 2♀捕獲, 他数頭確認 (図2).
石川が6月26日に, 2月に調査した西宮浜のアキニレの街路樹へ成虫の発生の確認を行った. 2月の調査時に多くの脱出孔の確認をしていたが, この日に確認できたのは2♂ 2♀を採集し, 他数頭を確認したのみであった.

この確認により, 六甲アイランドで発生したツヤハダゴマダラカミキリの西宮浜まで拡大していたことが判明した. ただ, 脱出孔の確認数の多さから考えて確認できた数が少ないため, 2023年より以前から発生していた可能性がある.

2, オオムツボシタマムシ

Chrysobothris ohbayashii Y.Kurosawa

オオムツボシタマムシについては, 兵庫県においても神戸市などでの採集記録があるが, 少ない種であり,



図2. ツヤハダゴマダラカミキリ (西宮市西宮浜採集).



図3. オオムツボシタマムシ (西宮市鷺林寺町採集).

西宮市での記録を見かけないので, ここで報告しておく.

採集地：西宮市鷺林寺町 県立甲山高等学校敷地内

採集日：2024年9月5日 採集者, 木下翔太郎

採集時の様子：木下翔太郎は同校の2年生であるが, 小学生時から筆者らと西宮市の昆虫調査を続けている, 優秀なメンバーである. 本高が六甲山地南東麓の林地部に立地しているため, 学校敷地内で確認される昆虫類の調査を, 先輩の中本南から引き継いで続けている.

今回, 本種を発見したのはクラブの活動中に, 目前に落下してきたものを見つけたのである. 本種の状態は, 既に死んでおり, 左エリトラは欠けていた (図3).

なお, 本校が位置する場所は北は仁川渓谷に面し, 東は森林地帯を挟み宝塚ゴルフ場へと続き, 西は六甲主峰へ続く山地部, 南は山麓部の鷺林寺の広大な社寺林に接する. 特に, 鷺林寺の敷地はクヌギ等の大木を有する保護された自然林地帯で, その樹林地に同校は接しており, 中本の調査を木下が引き継ぎ, ライトトラップなども使い昆虫相を明らかにしている. なお, 中本は西宮市の六甲山地以南では未確認であったギフチョウ, ミドリシジミ, オオチャイロハナムグリを同地で確認して, 本誌で報告している. (中本・神吉, 2021)

文献

森本桂, 2007. 新訂原色昆虫図鑑 第II巻 (甲虫篇). 平成19年5月新訂版初版, 北隆館 (東京).
国立環境研究所「侵入生物データベース ツヤハダゴマダラカミキリ」<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60310.html> (2024.9.10 閲覧)
高橋寿郎, 1998. 兵庫県のタマムシ (1). きべりはむし, 26 (1) : 18.
中本南・神吉正雄, 2021. 兵庫県西宮市におけるギフチョウ, ミドリシジミ, オオチャイロハナムグリの記録. きべりはむし, 44 (1) : 51-52.